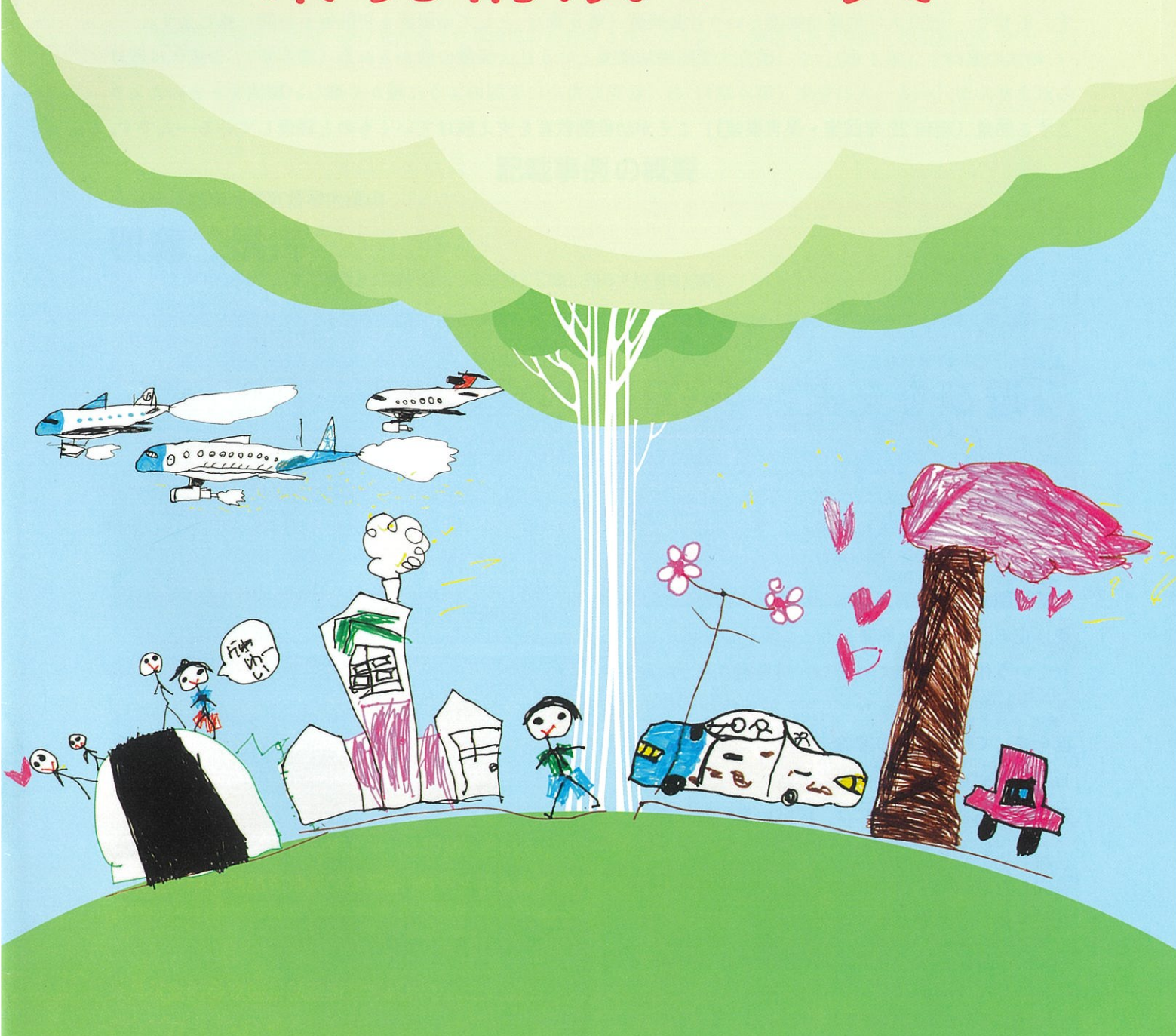


国立大学附属幼稚園からの提案 15

遊びを充実させる 環境構成の工夫



令和2年3月

全国国立大学附属学校連盟幼稚園部会

発刊にあたって

このリーフレットを手にしてくださったみなさまに感謝申し上げます。そして、「幼稚園教育は、(略) 環境を通して行う(幼稚園教育要領)」の「環境」へのこだわりをお寄せくださった各園の先生方に感謝申し上げます。

世界保健機関(WHO)総会で2001年に採択された国際生活機能分類(ICF)に示された5つの「環境」を手がかりに各園のそのこだわりを読み解けば、園児に最も近い環境である「教材や教具などの人工物(第1章)」と次に近い環境である「動植物や光、音、空気などの自然物(第2章)」に関する精密な選別や調整、そして「先生方の専門的な働きかけ(第3章)」、「その園やその地域、時代の雰囲気(第4章)」などを感じます。そして、「国立大学附属幼稚園という社会装置(第5章)」としての限界も可能性も行間に感じます。

「時代の風向き(第4章)」や「国立大学附属幼稚園という社会装置の動かされ方(第5章)」の変化は避けられませんが、「一人一人の先生(第3章)」の「幼児のために天国のように暖かく楽しい環境をととのえようとする熱意(昭和22年試案・保育要領)」こそが幼稚園教育を支え続けていくものと確信している一人です。

山梨大学教育学部附属幼稚園長

古屋 義博

「遊びを充実させる環境構成の工夫」について

幼児教育・保育が無償化となり保育の質が問われているときに、全国の国立大学附属幼稚園で取り組んできた「遊びを充実させる環境構成の工夫」に関する研究の成果を紹介することは、大変意味があることだと思います。

幼稚園教育要領解説には「幼児期の教育においては、幼児が生活を通して身近なあらゆる環境からの刺激を受け止め、自分から興味をもって環境に主体的に関わりながら、様々な活動を展開し、充実感や満足感を味わうという体験を重ねていくことが重視されなければならない。その際、幼児が環境との関わり方や意味に気づき、これらを取り込もうとして、試行錯誤したり、考えたりするようになることが大切である」と、遊びや環境を通して行う教育の意義が述べられています。環境に触れ対話する中で生まれてくる興味・関心を出発点として遊びが始まり、その遊びに夢中になり充実していく中で、子供たちは豊かな経験を積み重ねていきます。遊びを充実させるためには、環境の要因が大きいと考えられます。

ここに紹介された研究は、子供たちが主体的に遊びをつくり出し、没頭し、やり遂げるための環境について追究した取組です。これらの研究が校種を超えて広く共有されるとともに、全国の幼児教育施設の中で活用され、子供たちの豊かな生活に反映されることを願っています。

全国国立大学附属学校連盟幼稚園部会調査委員長

神永 直美

目 次

発刊にあたって	2	
「遊びを充実させる環境構成の工夫」について	2	
記載事例		
「やってみたい」を育む環境づくり		
～北国の自然を活かす～	北海道教育大学附属旭川幼稚園	4
子どもが夢中になって遊ぶ環境とその援助	宮城教育大学附属幼稚園	5
遊びこむ子どもを育む	山形大学附属幼稚園	6
自ら育つ子どものための環境を考える	お茶の水女子大学附属幼稚園	7
子どもを支える保育ー評価を通してー	上越教育大学附属幼稚園	8
“楽しさ”から“おもしろさ”へ～探求し、思考する保育を目指して～		
心のトキメキから知的なヒラメキを生む環境構成	奈良教育大学附属幼稚園	9
幼児期における環境教育を探る	福岡教育大学附属幼稚園	10
コラム		
7園の取り組みに学ぶ、遊びを充実させる環境のための3点のポイント 東京大学大学院 秋田喜代美	11	
令和2年度 全国国立大学附属幼稚園研究テーマ一覧	12	

記載事例の概要

「やってみたい」を育む環境づくり ～北国の自然を活かす～

- 日々の記録
 - ・クラス担任が、幼児の環境との関わりについて強く印象に残った場面を記録。
 - マップ記録
 - ・全職員が各自かかわった幼児の遊びの様子(誰が・何を使って・どんななど)を付箋に記録し園舎内外の大型マップに掲示。
 - フォトカンファレンス
 - ・1枚の写真から見える環境や保育の内容、育ちなどを話し合う。
- 北海道教育大学附属旭川幼稚園

子どもが夢中になって遊ぶ環境とその援助

- 幼児の日々変容する「心の育ちと言葉の育ち」を以下の手立てから捉える
 - ・幼児の「心の育ちと言葉の育ち」実態把握
 - ・多面的に捉える各種カンファレンスの工夫
 - ・幼児の育ちや遊びを捉える保育記録の工夫
 - ・「子ども」「教師」「保護者」のためになるドキュメンテーションの工夫
 - ・異学年交流、幼小連携、幼小接続の取組
- 宮城教育大学附属幼稚園

子どもを支える保育ー評価を通してー

- 今年度から、日々の保育が幼児の育ちを支えることにつながっているのか、評価する手立てを探っている。
 - 保育における評価を「幼児の姿に照らして、教師の援助や環境構成などを振り返り、改善を図ること」と捉え、保育記録の内容や方法、カンファレンスのもち方を中心に検討し、評価のしくみづくりに取り組んでいる。
- 上越教育大学附属幼稚園

遊びこむ子どもを育む

- 遊びの意味を4つの視点から読み解く
 - 事例の図式化による考察と視点の精緻化
 - 文化的意味の捉えからの遊びの考察
 - 保育者の援助・働きかけについての再考察
 - ビデオリフレクションによる関わり方の考察
 - 保育記録遊然草とドキュメンテーション
 - 定例ディスカッション・環境チェックツアー
 - 園行事や造形活動と遊びのつながりの再考
- 山形大学附属幼稚園

“楽しさ”から“おもしろさ”へ ～探求し、思考する保育を目指して～ 心のトキメキから知的なヒラメキを生む環境構成

- Society5.0の到来を見据え、自らが課題意識をもち仲間と考え探求し思考する力を育む。
 - こども達がどんな「人・物・出来事」に心をトキメかせ、そこからどのようなヒラメキが生まれてくるのかを読み取り、探求を生み思考を深める環境構成を検討する。
- 奈良教育大学附属幼稚園

自ら育つ子どもための環境を考える

- 本園の教育の基本に、子どもは「自ら育つもの」であることを据え、こうした子どもの姿をていねいに捉え続ける。
 - 一人ひとりの子どもにとって、園が安心して暮らせる場所になることを教師は保障する。
 - 子どもが「モノ、ヒト、コト」と対話的に関わる姿(事例)から、豊かな育ちにつながる環境の構成について考察を進める。
- お茶の水女子大学附属幼稚園

幼児期における環境教育を探る

- 目的
 - ・幼児の遊びや生活と環境との関わり・つながりを探り、幼児期の環境教育を通して育まれる力について検討を行う。
 - 目指す幼児の姿
 - ・「自然を通して育まれた資質・能力を生かして生活や人と関わり、つながりを感じる幼児」[地球規模につながる問題を自らの問題として主体的に捉え、身近なところから取り組もうとする幼児]
- 福岡教育大学附属幼稚園

「やってみたい」を育む環境づくり ～北国の自然を活かす～

幼児が主体性を発揮して遊びを展開する中で、豊かな対話や協同が生まれ、気付きや考え、工夫や発見による豊かな学びにつながるためには、環境構成のあり方が不可欠である。本園では、研究テーマを「『やってみたい』を育む環境づくり」と設定し、今年度は「北国の自然を活かす」を副題として、幼児の自発的な活動を促すような環境構成のあり方や、四季が明瞭で寒さが厳しいこの地域の自然環境を保育に生かす更なる可能性を探っている。

教育課程

3つの取組による共通理解を基に、教育課程及び指導計画の改善を図る

遊 び

自然を感じて楽しむ

・豊かな自然を通して動植物と関わり、気付きや工夫を友達や先生と楽しむ。

例) 木の観察、お花摘み、川づくり雪遊び



自由な発想で広がる

・やってみたいという思いを存分に生かして自分で、または友達と遊びを広げていく。

例) 虫博物館、お店屋さん、くるみ転がし段ボールの剣



幼児・保育の共通理解

カリキュラムの工夫・改善

フォトカンファレンス

各クラスの遊びの様子から、みんなで話したい場面の写真を持ち寄り、その時の状況、環境や保育の内容、育ちの方向性、疑問などについて、当該園児に関する担任の理解や「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を意識しながら話し合う。

日々の保育記録

各担任が、日々の保育の記録において幼児の環境との関わりに関して強く印象に残った場面を丁寧に記録していくようにする。保育記録は、東京学芸大学附属幼稚園小金井園舎の記録フォーマットを参考に行う。

マップ記録

園舎内と園庭の配置図を職員室壁面に用意し、遊びの様子の記録(付箋)をマッピングする。写真があれば貼る。担任、副担任や支援員も同様の記録を行う。週の終わりにファイリングし、デジタルデータでも保存し、次週の週案作成等にも活用する。

評 価

3つの取組を中心に園舎内・園庭の環境構成や遊びの姿から保育を評価する

子どもが夢中になって遊ぶ環境とその援助

本園では、研究テーマを「子どもが夢中になって遊ぶ環境とその援助」として「心の育ちと言葉の育ち」を支える環境構成やその援助について研究に取り組んでいる。様々な取組の中の一つに保育を時期や場面で切り取り、より良い保育について語り合う営み(カンファレンス)がある。多面的に様々な角度から幼児の遊びを見取っていくとともに保育のアイデアを出し合う取組である。



【取組1】環境構成カンファレンス 季節ごとに学年にどのような遊びが展開できるかを話し合う。

【実践例】5歳児 テーマとなる遊び ままごと遊び(一部抜粋) 砂, 粘土による料理作り。年長として、もう少し遊びを深めていくアイデアがほしい…

8, 9月	10月	11月
<ul style="list-style-type: none"> 食べ物が出てくる絵本を読む(ジンジャーワッキー) 年下の幼児との関わり 実の場所を教える、一緒に作る 料理のイメージを区別する地面で作る 砂場の周りをビールケース、テーブルで囲い、キッチンを作る 	<ul style="list-style-type: none"> 使用する食器や調理器具の吟味(作りたくなるような) かまどを作って昔の人の生活体験(火起こし、テントのような家) 粘土を使ったワッキー屋さんや、泡遊びのケーキ作りと合わせて、お菓子屋さんごっこを展開する 粘度や色の異なる様々な質の砂、土に触れて遊ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> ワッキー屋さん(お店屋さんごっこ) お店屋さんごっこの展開(カフェ、レストラン) 泡遊びとの競演 味比べ(出来栄比べ) レシピ本作り



ワッキーの写真を見ながら、イメージを膨らませていた。

【取組2】園行事カンファレンス 園行事と遊びの関わりをもたせる環境構成について話し合う。

【実践例】親子ふれあいレクリエーション(3歳児)(一部抜粋)

親子レク前	親子レク	親子レク後
<ul style="list-style-type: none"> 必要なものを子供たちと作る 砂場に「どうぞのいす」をイメージした環境 丸くなってタッチゲームをする(リレーのルール) お家の方との共有(絵本を読んでもらうなど) 絵本の読み聞かせ ビックブックの活用 		<ul style="list-style-type: none"> ごっこ遊びへの展開 「どうぞのいす」から「ごろんごろんころころ」への展開 絵本を用いた劇遊びへ展開

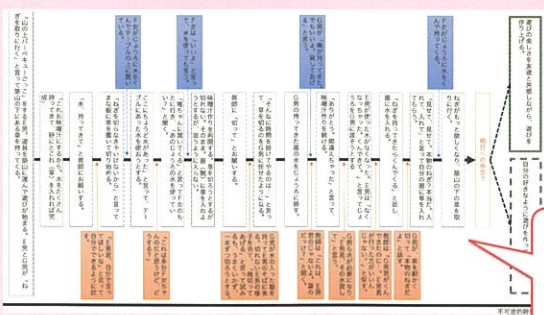


絵本「ぐりとぐら」をイメージして遊びを展開した。

「ぐりとぐら」の親子リレー

【取組3】TEMカンファレンス TEMで視覚化し、対象児の「心の育ちと言葉の育ち」を捉える。

【実践例】4歳児



夏休みに「築山の平面を増やして、活動の幅を広げた」ことで安定した遊びになった。

築山でのバーベキューごっこが大好きな幼児の遊びの様子



遊びこむ子どもを育む

「きのうのつづき！」と走り出す子ども。園の中は主体的に遊び出す子どもの姿で溢れている。私たちは、主体的な姿のさらに先にある姿を「遊びこむ子ども」と位置付け、事例を読み解きながら、その姿を明らかにしてきた。「①主体的態度」「②遊び課題の生成」「③他者との関わり」「④対象との関わり」の4つの視点(河邊貴子 2017)から遊びのエピソードを考察し、「遊びこむ子ども」に至るプロセスを読み解き、同時に、そこでの保育者の働きかけや環境構成の在り方についても、事例を可視化(図式化)しながら分析を深めてきた。

研究内容

- 遊びの事例を抽出
- 事例の図式化と考察
- 視点①～④の精緻化
- 保育者の援助についての分析
- 「遊びと学びフォーラム」の開催



Vol.1



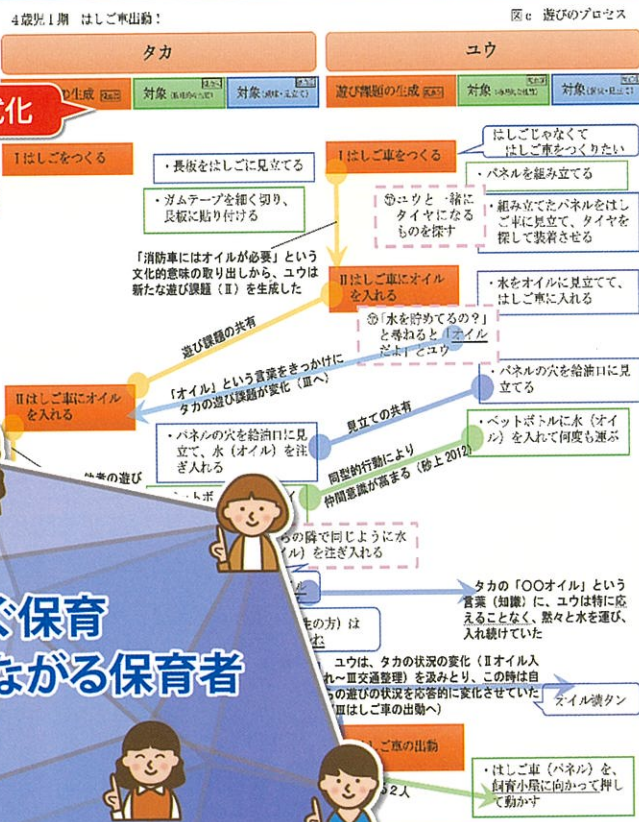
Vol.2



漉し器でお茶をつくることに夢中になる4歳児。

事例の図式化

研究紀要の発行



つなぐ保育 つながる保育者

しゃべり場

- 保育記録『遊然草』
 - ・ 写真でエピソード記録
- ユートークカフェ [略称 UTC]
 - ・ 保育ディスカッション
- ユー U … YOU と遊を語る
- トーク T … 語り合って「解く」「得」「磨く」
- カフェ C … 気軽に集い、気楽に解散
- 環境ツアー
 - ・ 保育室と園庭を定期的に
 - ・ 保育者みんなで行脚
 - ・ みんなで考え、みんなで環境の再構成



定例開催で「環境ツアー」を保育者みんなで楽しんでいる。普段の遊びの様子や援助の悩みなど、環境を見合いながら共有し、即座にみんなで園庭や保育室、掲示物などを再構成している。

造形活動と遊び

- 造形・環境・遊びの相互作用 —
- 育ちと遊びに寄り添った造形活動の計画
- 「園生活全体が造形活動である」という共通理解
- 造形で生まれた世界観を子どもと一緒に掲示デザイン



子どもたちによってデザインされた造形空間から、新たな遊びも生まれていく。(4歳児「さつまいもアート」)



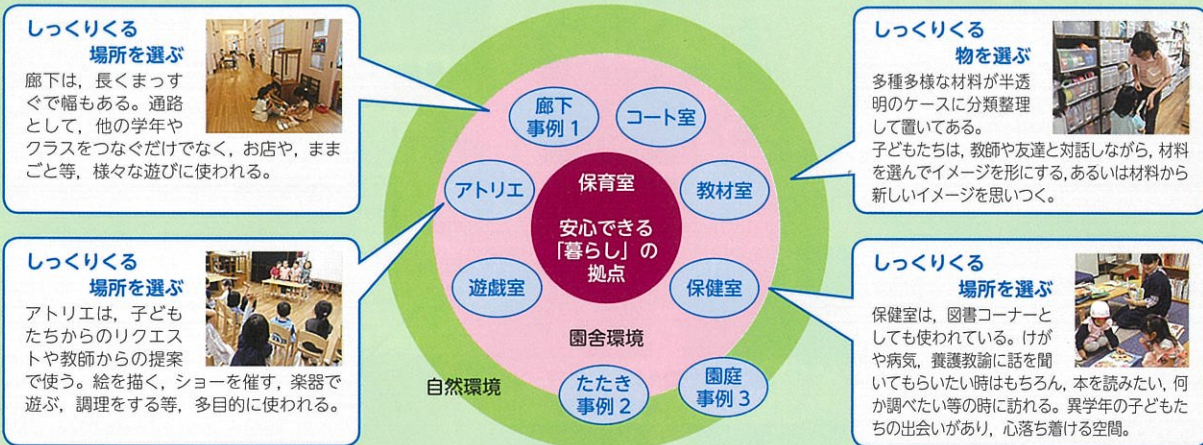
素材にたっぷり触れながら、イメージを広げる楽しさを味わう造形活動。(3歳児「お弁当」)

自ら育つ子どものための環境を考える

倉橋惣三(大正6年から昭和24年の間に3度、本園の主事(園長)をつとめる)は、その著書『育ての心』で子どもを「自ら育つもの」と説いている。本園では、倉橋の保育観を継承し、子どもが自ら動きだすことをていねいに捉えてきた。自ら始めた遊びを大切にすることを、実践研究の基本としている。

本園でこれまでに取り組んできた「環境」についての研究では、園庭の自然環境や園舎内外の空間に焦点を当て、子どもの豊かな育ちを保障する環境の意味や在り方について考察を試みてきた。そこででの研究成果や日々の保育実践から、遊びを充実させる環境構成の工夫について考察する。

園内の自然や園舎内外の空間について、環境構成の意味を教師間で共有する



モノ・ヒト・コトと対話的に関わる事例(5歳児)



(事例1)「小さい組に見せてあげよう」と5歳児のダンスショーが始まった。「舞台はどこがいいか」と考えた末、年少組保育室前の廊下を選んだ。3歳児は安心して見に来られ、5歳児たちはいろいろな人に見てもらえて、お互いに嬉しい場となった。



(事例2)「色水を作りたい」と言って選んだのは、保育室から出たすぐのたたきという場所。上履きでも外履きでも遊べるので、教室や保育室に材料や道具を取りに行きやすい。教室で選んだ透明の容器は色がよく見える。ジョーゴを用いて、友達と息を合わせて水を移していた。



(事例3) 右手奥にある水の流れだし口からつなげて「竹樋で水を流したい」と遊びが始まった。竹樋は長さも不揃いで、焦れば焦るほどうまく組み合わせられない。声を掛け合う、見守る、役割を交代する、つなげたい思いが一つになり、試行錯誤の時間は長く続いた。

まとめ

私たちは、幼稚園の環境を子どもたちにとって意味あるもので構成したいと考える。教師が意図をもってしつらえたものが、子どもたちによって創りかえられ、その意図を超え、新たな意味をもっていかされていくことや、子ども自らがその手で触れ、身体でかかわることで、新しく創り出していく緩やかさを含むものであるようにと考える。(平成22・23年度研究紀要『環境に対する豊かな感受性を育むー3・4年次ー』P98)

教師は、一人ひとりの子どもの安心できる「暮らし」の拠点を保障し、子どもたちが遊びを新しく創り出していく過程で、じっくり遊びこめるよう環境構成を工夫する。子どもが、試行を重ね思考を巡らせて、モノ・ヒト・コトと対話的に関わることのできる物や空間、そしてじっくりくろ感覚を得るまでの十分な時間の保障が、子どもたちが自ら育つための環境構成の要点と考える。そこで子どもたちが感受していることに丁寧に向き合い、子どもにとっての意味を捉え直しつつ、環境の再構成を重ねることが大切である。

子どもを支える保育 — 評価を通して —

本園では、園内・園外の環境について、その意図するところを教育課程に付け加えて示すこととした。環境を構成するとは、幼児の成長にとって意味のある状況をつくりだすことと捉えている。既にある物的環境の意味を教師が意識し直し整えることで、幼児の遊びがさらに豊かになると考える。環境やそこにある材料、道具とかかわる幼児の様子を見取りながら、整えた環境や教師の援助が幼児の遊びにとってどのような意味があったのか、どのような学びにつながったのかを振り返り、遊びがさらに充実したものとなるようにしていきたい。

季節や発達段階、遊びの様子に応じて、遊戯室や保育室の環境を変えています。

3歳クラスの材料コーナー



園内の環境構成

図書スペースがある廊下

季節によって出し入れを行う遊具

各保育室の中心に位置する遊戯室

期によって変える保育室環境

出会の広場

冬季に設置する風除室

園外の環境構成

みんなで育てて食べる野菜や遊びに使える植物の栽培

意図的な木陰と刈り取らない草花

日差しを遮るテント

3つの砂場と土山がある環境

直接入ることができる池

食べられる実のなる木の植樹

変化のある動きを誘う固定遊具



落ち葉も遊びに使えます

幼児が季節ごとの自然の変化や豊かさ、美しさを感じ取り、動植物にも親しむことができるよう、意図的・計画的に環境づくりを行っています。

“楽しさ”から“おもしろさ”へ ～探求し、思考する保育を目指して～ 心のトキメキから知的なヒラメキを生む環境構成

本園ではこれまで「自尊心」(心)、「からだ力」(体)の研究を行ってきた。これから到来する Society5.0 時代には、心と体に加え、自らが課題意識をもち、仲間と考え、探求し創造していく力が求められる。そこで本園は、子どもたちが自ら考え、思考し、探求する姿に着目し、どんな「人・物・出来事」に心をトキメかせ、そこからどのようなヒラメキが生まれているのかを読み取り、そのトキメキやヒラメキを生む環境構成とはどうあるべきかについて研究を進めている。

トキメキとは …… 子どもたちが「人・物・出来事」に出会ったときに、感じる面白さやワクワクした気持ちであり、心が揺れ動かされること。
ヒラメキとは …… トキメキを受け、子どもが感じたり、考えたりしたこと。

} どちらも子どもの言動から読み取っている

事例

…トキメキ

…ヒラメキ

…環境構成

滑るの楽しい! (3歳児5月)



今日はマットが敷いてある!

滑ってみよう!

楽しくなってきた!!

いろいろな滑り方に挑戦!

ゴザを使って、トンネルのように環境の再構成する。



トンネルが面白そう!

次は誰かな?

どんな滑り方をしようかな?

いろいろな滑り方が楽しいな!

満タンにしよう! (4歳児6月)



筒に電車を通すのが面白い!!

中身が見えるようにペットボトルの筒を出す。

立てたら面白そう!

砂を入れてみよう!

重みでペットボトルが折れてしまう。

今よりも硬めのペットボトルの筒を砂場に出す。



砂と水を入れてみよう!

硬い方が上手くいそそう!

満タンになり大満足!!

使いたいものがいっぱい! (5歳児9月)



教材室を子どもが自由に材料を探ることができるようにした。

1学期の遊びの続きのジュースをつくりたい!



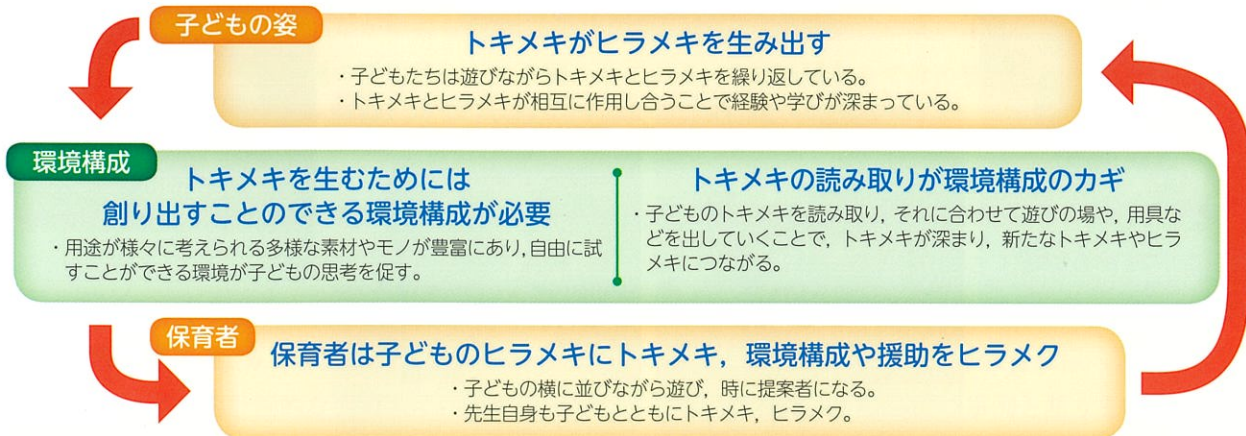
使えそうなものを探してみよう!

材料がいっぱいだ!

ジュースに丁度いい長さのストローはどれかな?



いろいろなジュースができて楽しくなってきた!



幼児期における環境教育を探る

本園では、令和元年度より「幼児期における環境教育を探る」を研究テーマとし、自然で遊ぶだけではなく、自然が生活や人とつながりがあることに気付いたり、関連付けたり、自然の多様性・循環性・有限性について幼児なりに理解したりするなど、自然を大切に思う幼児を育むための環境の構成について検討を開始している。

また、平成30年度から、4歳児と5歳児においてプロジェクト型保育を行っている。これは、幼児が興味や関心をもっていることに主体的に継続して取り組んでいく保育である。「土プロジェクト」は、平成30年5月～令和元年6月まで幼児（4歳児～5歳児）が土遊びの中で、土と水の比率による形態や固さの違い、粒子の大きさによる手触りや性質の違い、土の種類による色の違いなどについて追究・探究した取組である。

「充実とは」

○心動かされる遊びの中で…

- ・関わりの**量が増える**こと（回数を重ねる）
- ・関わりの**幅が広がる**こと（種類が多様化する）
- ・関わりの**質が高まる**こと（気付く 理解する 試す 確かめる 工夫するなど）

土のチョコレートづくり



幼児の興味に応じた場の設定・用具の準備

土を固める



繰り返し試し、確かめることのできる場の設定

お店屋さんごっこへ



遊びの方向性を示す展示

土の色の違いを発見



つくったものを展示する際の工夫

土プロジェクト

素材に着目する

土のコーナーの設置



幼児の気付きや発見を促す場の工夫

光る泥団子づくり



モデルの提示

土のクレーパスづくり



専門の大学教員との出会い

腐葉土との出会い



保護者との連携

7園の取り組みに学ぶ、 遊びを充実させる環境のための3点のポイント

東京大学大学院教育学研究科教授

秋田 喜代美

7園の取り組みの共通性と各園各々の知恵に、私たちは多くのことを学ぶことができる。

まず第1に、「遊びが充実している」姿である。遊びの内容は多様であり、遊びが生まれる場も年齢により異なる。だが、充実した遊びの過程には共通性がある。子どもが安心して、そこでやってみたいと思える出会いがあり、自らが関わることで遊びが始まる。その中でワクワクし夢中になり、繰り返し遊びこんでいる姿である。そしてその中でその子なりのこだわりや気づきが生まれ、課題意識をもって「もっと」と試したり、見通しを持って確かめたりする試行錯誤の過程を存分に経験する。それによって、その子ならでは、その子たちならではのさまざまな工夫やひらめきが生まれ、遊びが新たな面を生み出しながらつながり継続していく過程ということが言える。子どもたちの今ここの経験としての「居場所感・安心」と「夢中・没頭、遊び込む」の保障が、教育の質の高さを示す⁽¹⁾。深く遊びこむからこそ、そこに人や物、事との一体感と愛着が生まれる。

そして第2に、どのような「環境」が求められるかである。いずれの園も1枚以上戸外、園庭の写真や事例を取り上げていることからわかるように、自然環境が四季折々にもたらす多様性の中で、それを子どもたちが感覚、感性により感じられるような工夫が環境として構成されていることが分かる⁽²⁾。これは一時的な構成ではなく、長期的な見通しを持って園庭の四季や経験をどのように捉えるかである。そしてその中で、十分に身体を動かし心身ともに健やかに育つ環境として、空間だけでなく遊びの時間の十分な保障がなされている。その中で、園舎内でも戸外やその境界部分等でも、子ども自らが素材等を選んで様々な考えを活かして試して使えることが大事である。

環境の構成・再構成は保育者が行うものとする園も多い。だが、子どもと共に、そして遊びが充実するほどに、子ども自らがデザインし、主体的に遊びに応じて環境を構成できる可動式のもの等も重要になる。子ども自らが環境の構成者となる時、そこに子どもの深い思い入れも生まれる。保育者はその経験の意味を捉えることで、次への環境構成の見通しにつながっていくのである。園庭が充実している園では時に環境を園内だけに閉じて捉えがちである。だが筆者らの全国調査⁽³⁾によれば、環境多様性の高い園ほど園庭ばかりか、地域の歴史文化や園外の地域資源の活用等にもより開かれており、その地域ならではの独自性を活かした、多様な人との出会いにより子どもの経験も豊かになることもわかっている。さらにこれからこうした点も各園に期待されていくだろう。

そして第3に、さらなる充実のための工夫のために、写真や図式化、エピソード記録等の記録の工夫によって、環境の中で子どもの姿を捉え、共有し、対話を通して共通理解をしていくことが重要という点である。特定場面のある子どもの姿から遊びの発展を捉える、より長期的な遊びの展開の流れを捉える、空間全体を捉え俯瞰するなど、カンファレンスや研修の取り組みが有効である。さらにそれを教育課程へとつなげることで、安定的体系的計画的な環境の向上へと繋いでいくことができる。ぜひ各園の事例と語りを楽しみたい。

(1) 保育プロセスの質研究プロジェクト2010「子どもの経験から振り返る保育プロセス：明日のより良い保育のために」幼児教育映像制作委員会

(2) 秋田他2019「園庭を豊かな育ちの場に：実践につながる質の向上のヒントと事例」ひかりのくに

(3) Cedep 2019「屋外環境に関する調査」報告書 http://www.cedep.p.u-tokyo.ac.jp/projects_ongoing/entei/

令和2年度 全国国立大学附属幼稚園研究テーマ一覧

令和2年2月現在

幼稚園名	研究テーマ	公開研究会等の期日	幼稚園名	研究テーマ	公開研究会等の期日
1 北海道教育大学 附属旭川幼稚園	「やってみたい」を育む環境づくり (2年次)	1.30(土)	25 三重大学教育学部 附属幼稚園	遊び込む姿を目指して ～ものとの対話が深まる保育環境を考える～	11. 7(土)
2 北海道教育大学 附属函館幼稚園	未定	7.18(土)	26 滋賀大学教育学部 附属幼稚園	共に育つくらしの中で ～子どものステキを見つめる保育～	11.10(火)
3 弘前大学教育学部 附属幼稚園	幼児期の体づくり ～健やかな心の育ちに着手して～ (4年次)	開催予定なし	27 京都教育大学 附属幼稚園	幼児の生活と情報活動	12.12(土)
4 岩手大学教育学部 附属幼稚園	豊かな遊びを育む	10.24(土)	28 大阪教育大学 附属幼稚園	遊びに生きる子どもを育む ～遊びの育ちを追いながら～(2年次)	11.7(土)
5 宮城教育大学 附属幼稚園	子どもが夢中になって遊ぶ環境とその援助 ～心の育ちと言葉の育ち～(第3年次)	10.27(火)	29 兵庫教育大学 附属幼稚園	遊びが充実する保育を目指して	12. 5(土)
6 秋田大学教育文化学部 附属幼稚園	自発的活動としての遊びを中心とした保育 ～子ども主体の生活と環境～	6.25(木) 11.12(木)	30 神戸大学 附属幼稚園	遊びの中の学びを探る ～資質・能力の発揮、伸長を支えるために～	5.30(土)
7 山形大学 附属幼稚園	遊びこむ子どもを育む(3年次)	6.11(木)	31 奈良教育大学 附属幼稚園	“楽しさ”から“おもしろさ”へ ～探求し、思考する保育を目指して～ 心のトキメキから知的なヒラメキを 生む環境構成	11.28(土)
8 福島大学 附属幼稚園	幼稚園教育で育む資質・能力とは ～小学校以降の生活や学習の基盤となる経験に ついて確かめる～	10. 2(金) 10. 3(土)	32 奈良女子大学 附属幼稚園	資質・能力を育成する教育デザイン ～子どもスタートの教育実践知から読み 解く保育の専門性～	11.21(土)
9 茨城大学教育学部 附属幼稚園	子どものやりたいがふくらむ保育(仮)	2.10(水)	33 鳥取大学 附属幼稚園	「いま伸びる力」と「あと伸びる力」を育てる ～幼児期の終わりまでに 育ってほしい姿を視点として～	10.24(土)
10 宇都宮大学教育学部 附属幼稚園	遊びつて学び!! ～やり遂げようとする力を与える環境と援助～	6.13(土)	34 島根大学教育学部 附属幼稚園	遊びこむ子どもを育てる(5年次) ～評価を基にした深い学びを 実現する活動計画の構築～	11.12(木)
11 群馬大学教育学部 附属幼稚園	幼児の遊びを豊かにする教育課程の編成 ～学びの連続性に着手して～	10.17(土)	35 岡山大学教育学部 附属幼稚園	共にくらしを創る(3年次)	11.21(土)
12 埼玉大学教育学部 附属幼稚園	保育内容の再々考(1年次)	11.10(火)	36 広島大学 附属幼稚園	未定	11月上旬
13 千葉大学教育学部 附属幼稚園	幼児と教師が共に主体となる保育 ～対話的に進める保育の充実を目指して: 教育課程の再編成～(2年次)	6.20(土) 11. 7(土) 2.20(土)	37 広島大学 附属三原幼稚園	高度に競争的でグローバル化された多様性 社会に適応するために求められる、3つの次元 (躍動する感性・レジリエンス・横断的な知識) の基礎となる資質・能力を育成する幼小中一 貫教育カリキュラムの研究開発(第3年次)	12. 5(土)
14 東京学芸大学 附属幼稚園小金井園舎 東京学芸大学 附属幼稚園竹早園舎	しなやかな心と体を育む保育(3年次) 学びを深める場をつくる	11. 7(土) 1.22(金)	38 山口大学教育学部 附属幼稚園	よりよい未来を共に創り出す人間 ～[対象・他者・自己と向き合う子どもの姿] を視点とした保育・授業づくり～	11.27(金)
15 お茶の水女子大学 附属幼稚園	幼児の発達と学びの連続性を踏まえた 幼稚園の教育課程(3歳児～5歳児)の編 成及び保育の実際とその評価の在り方 についての研究開発(3年次)	6.26(金) 2. 5(金)	39 鳴門教育大学 附属幼稚園	遊誘財研究を生かした保育者養成	10.17(土)
16 山梨大学教育学部 附属幼稚園	子どもの声から保育を問直す	6.20(土) 11.28(土)	40 香川大学教育学部 附属幼稚園 香川大学教育学部 附属幼稚園高松園舎	保育する～子どもとつくる明日～ 「ああしたい」「こうしたい」の実現に向けて ～遊びこむ姿を支える保育の在り方～	1.29(金) 2. 5(金)
17 新潟大学 附属幼稚園	新たな世界を創り出す子供をはぐくむ ～[統合的な学び]の実現を通して～ (第4年次)	幼児教育研究会 5.13(水) 教育研究協議会 9.18(金) 幼児教育研究会 11.28(土)	41 愛媛大学教育学部 附属幼稚園	子どもと創る「深い学び」	1.29(金) 1.30(土)
18 富山大学 人間発達科学部 附属幼稚園	子どもの探究心を育む ～領域「環境」を中心に～ ～探究する子どもの学びを支える(2年次)～	6.18(木)	42 高知大学教育学部 附属幼稚園	主体的・対話的で深い学びを実現する 保育の振り返りと実践のあり方(2年次)	2. 4(木)
19 金沢大学人間社会 学域学校教育学類 附属幼稚園	幼児期における社会情動的スキルの発達(仮)	10.30(金)	43 福岡教育大学 附属幼稚園	幼児期における環境教育を探る	10.31(土)
20 福井大学教育学部 附属幼稚園	つながりが育む学びの深まり ～出会い、気付き、好きになる～	6.19(金) 10.10(土)	44 佐賀大学教育学部 附属幼稚園	遊びや友達の中で育まれる力	2. 7(日)
21 信州大学教育学部 附属幼稚園	「たくましく心豊かな地球市民」を育むために、自 己表現力・課題探求力・社会参画力を軸として、 様々な資質・能力を有機的・総合的に育む、幼小 中一貫教育としての教育課程/指導・評価の開発	10.17(土)	45 長崎大学教育学部 附属幼稚園	園生活で育む自己肯定感	10.31(土)
22 上越教育大学 附属幼稚園	子どもを支える保育(2年次)	幼児教育研究会 10. 1(木) 公開 5.27(水) 保育 9.16(水)	46 熊本大学教育学部 附属幼稚園	学びをつなぐ教育課程 ～幼児期における主体的・対話的で 深い学びの実現に向けて～	2.14(日)
23 静岡大学教育学部 附属幼稚園	幼児理解からはじめる教育課程の編成	6.17(水) 11.11(水) 1.27(水)	47 大分大学教育学部 附属幼稚園	子どもの主体的な活動を支える 保育を目指して(3年次)	7. 4(土)
24 愛知教育大学 附属幼稚園	「あれ?」「そうだ!」「やってみよう!」 学びがにつながる園生活～思考力の芽生えを捉えて～	11. 5(木)	48 宮崎大学教育学部 附属幼稚園	未定	2. 5(金)
			49 鹿児島大学教育学部 附属幼稚園	保育の質の向上につながるカリキュラム・ マネジメント～1年次:園内体制～	11.20(金)

－ 発行 －

全国国立大学附属学校連盟幼稚園部会

－ 事務局 －

山梨大学教育学部附属幼稚園

〒400-0005 山梨県甲府市北新1-2-1

TEL:055-220-8320 FAX:055-220-8783 E-mail: kirinome@yamanashi.ac.jp